

苦しみのあった所に、やみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは栄光を受けた。9:2 やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。」9:3 あなたはその国民をふやし、その喜びを増し加えられた。彼らは刈り入れ時に喜ぶように、あなたの前で喜んだ。9:4 あなたが彼の重荷のくびきと、肩のむち、彼をしいたげている者の杖を、ミデヤンの日になされたように粉々にされたからだ。

私たちは北半球の中緯度地域に住んでいますが、それでも夏と冬の日照時間の違いを感じます。冬至の頃に比べれば日は長くなり、太陽は高くなって来ました。しかし夏至の頃に比べれば、まだまだ日は短く、太陽は低いです。この違いは緯度が高いほど大きくなります。北極点や南極点の周辺では、太陽が沈まない白夜と太陽が昇らない極夜しかありません。その地域の人々にとって、太陽が昇り始めることは私たちが感じる以上に大きな変化です。

ところで、今日の箇所では預言者イザヤは気象予報士のようなものです。暗やみに包まれていたゼブルンの地とナフタリの地に大きな光が昇ることを予報(預言)しました。それは極夜に太陽が昇り始めるよりも大きな変化でした。北極点や南極点に昇った太陽が他の地域も照らすように、ゼブルンとナフタリに昇った光はすべての時代のすべての人々を照らします。では、この光についてイザヤから学びましょう。

1. 救い主はゼブルンとナフタリの地を栄光の光で照らします

先週も話したように、神が全人類の救い主として遣わしたイエスがベツレヘムで生まれたことは、天使によってベツレヘム郊外にいた羊飼いたちに知らされ、特別な星によって東方の博士たちに知らされました。こうして、救い主としてのイエスの栄光は輝き始めました。しかし、イスラエルの正統な王家の子孫として生まれたイエスに王座を奪われるのではないかと恐れたヘロデ大王は、赤ちゃんイエスの抹殺を企てました。その時はまだ死ぬ時ではなかったので、神は天使を遣わしてその危機を知らせ、両親と赤ちゃんイエスを間一髪でエジプトへ逃がしました。命が助かったことは良かったのですが、イスラエル人の中で輝き始めた赤ちゃんイエスの栄光は、イスラエル人の目から一度消えました。その亡命は秘密裏に行なわれたので、誰も赤ちゃんイエスの消息を知りませんでした。

ヘロデ大王の死後、神の指示によって両親と幼子イエスはイスラエルに帰国しました。エジプトはイエスが住み続ける場所ではありませんでした。なぜなら、イエスが神の計画に従い、全人類の罪を背負って十字架で死ぬ場所はイスラエルだったからです。しかし、ベツレヘムやエルサレムのある地域を大王の子が支配していたので、ヨセフとマリヤと幼子イエスはガリラヤ地方のナザレに住みました。人々の目から消えたように見えましたが、神はイエスを救い主として世に送り出す準備を着々と進めました。幼子イエスは神の戒めに従った完全な生活を送り、両親に仕え、聖書を良く学び、神にも人にも愛されて育ちました(ルカ 12:41-52)。そして、ヨセフが死んだ後は家業の大工を継ぎ、母親や兄弟姉妹を養いました。そして、30歳の時にヨハネからヨルダン川で洗礼を受け、救い主の活動を始めました。

しかし、ヨハネが捕えられたと聞き、ガリラヤに立ち退きました(マタイ 4:12)。そして、ナザレに帰って「わたしは旧約聖書に預言されている救い主です。」と教えたのですが、ナザレの人々は「あれは大工の子ではないか。」と言って、イエスを受け入れませんでした(ルカ 4:16-30)。そのため、イエスは生活と活動拠点をガリラヤ湖畔のカペナウムに移しました。そこには、ペテロやアンデレなど、後に使徒となる信者が住んでいました。その頃、二人は漁師をしながら、一信者としてイエスの伝道を助けていました。イエスがガリラヤ湖上から岸辺の群衆に話すために、舟を深みに漕ぎ出すように頼んだ時、ペテロは漁を終えて網を洗っていましたが、舟を深みに漕ぎ出しました。信者の住んでいる所を拠点にして、信者の協力を得て伝道することは、良い伝道方法です。

しかし、イエスがカペナウムに移り住んだのには別の理由がありました。それはイザヤ書 9 章 1 節と 2 節の預言を実現させるためでした。ナフタリとゼブルンはヤコブ(イスラエル)の 12 人の息子のうち、六男と十男です。イスラエル人がエジプトでの 400 年の奴隷生活から脱出して、カナン(現在のイスラエルとパレスチナ)に定住した時、後にガリラヤと呼ばれる地方はナフタリとゼブルンの子孫たちに与えられました。イスラエルは紀元前 1000 年頃に王国になり、ダビデとソロモン王の治世に繁栄しました。ソロモンの死後、王国は二つに分裂しました。北王国の王たちはすべて不信仰でしたが、南王国には信仰深い王が何人かいました。神は、不信仰を悔い改めない北王国を、アッシリア帝国の軍隊を使って滅ぼすことを、預言者を通して宣告しました。1 節の「はずかしめを受ける」は、神からの罰として異邦人に侵略されることです。不信仰にもかかわらず、北王国の人々は神に選ばれた民であることを誇っていたので、神はその誇りを打ち砕きました。「だれでも自分を高くする者は低くされます。」(ルカ 18:14)。アッシ

リア軍は北王国の人々を捕虜として連れて去り、異邦人を北王国に移住させました。そのため、異邦人（外国人）のガリラヤと低くみられるようになりました。そのガリラヤが栄光を受けると、イザヤは預言しました。

イエスの時代になっても、ガリラヤの人々は霊的な暗闇の中で生きていました。霊的な暗闇とは、悪魔や罪や死が人間を束縛し、人間が神について無知や不信仰になっていて、神の罰や怒りを受ける状態です。霊的な暗闇は人間を神の祝福から永遠に引き離し、人間に永遠の苦しみと死をもたらしますが、人間はそれを自分の力で払いのけることができません。ガリラヤの人々もできませんでした。ですから、イエスはガリラヤに行き住み、恵みによる罪の赦しを宣べ伝えました。イエスの活動によって、霊的な暗闇の中にすわっていた民が神の恵みの光が昇りました。罪の報いである永遠の死から救う光でガリラヤの人々は照らされました。イエスは霊的な極夜を照らす唯一の光です。イザヤはそのことを聖霊から教えられたので、「苦しみのあった所に、やみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは栄光を受けた。やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。」と預言することができました。

II. 救い主は国民を増やします

イザヤが今日の箇所でも預言したのは、イエスがガリラヤの人々を恵みの光で照らすことだけではありません。恵みの光の効果についても預言しました。イザヤは3節で、「あなたはその国民をふやし、その喜びを増し加えられた。彼らは刈り入れ時に喜ぶように、あなたの前で喜んだ。」と書きました。この「あなた」はイエスです。「その国民」はイエスの国の国民、つまり、神の国の国民です。人間はもともと神によって造られ、神を礼拝し、神に仕えるために造られました。しかし、最初の両親が悪魔に誘惑されて神に背いた瞬間に、人間は神に属する者でなくなりました。神の国の国民としての資格を失い、悪魔に支配された者、悪魔の子孫、悪魔の奴隷となってしまいました。そのような人間を悪魔の支配から解放して、神の子ども、神の国の国民とするために、神であるイエスが人間のからだを取ってこの世に現われました（1ヨハネ3:8）。

イエスはすべての人の罪を身代わりに償って、人間が神からの永遠の罰を受けなくて済むようにします。信じるすべての人に、罪の赦しと神の子供とされる特権と永遠の命を、条件なしに与えます。その方法によって、ゼロ（0）になってしまった国民を増やします。さらに、信者を通して福音を宣べ伝えて、国民を増やします。それだけではなく、イエスは恵み深く、慈しみ深い王なので、国民の喜びを増し加えます。ゼブルンやナフタリの地はアッシリア帝国の兵士の足によって踏みじられ、辱めを受けますが、イスラエル人が待ち望んでいた救い主の生活と活動拠点になります。救い主が歩き回って永遠の希望や喜びや平和を告げ知らせます。それはゼブルンやナフタリの地の人々にとってすばらしい名誉です。

彼らは刈り入れ時に喜ぶ農夫のように、イエスの前で喜びます。それは、イエスが彼らの重荷のくびきと、肩のむちと、彼をしいたげている者の杖を、ミデヤンの日のようにするからです。士師記の時代にミデヤン人がイスラエルに攻めて来た時、主はミデヤン軍を打ち負かして、イスラエル人をミデヤン人による圧迫や搾取の重荷から解放しました。イエスがゼブルンやナフタリの地の人々にもたらすのは、ミデヤンからの解放以上のものです。悪魔と罪と死の重荷やしいたげからの解放です。イエスは十字架の死と復活によって、悪魔と罪と死が人間に負わせている重荷やしいたげを粉々に打ち砕きます。

イザヤはイエスの700年前の預言者ですが、イエスが救い主の務めを必ず成し遂げて、国民（信者）を増やし、国民の喜びを増し加えることを聖霊から教えられて、分かっていました。それで、イエスが未来に成し遂げることを、現在完了形で書き残しました。日本語聖書ではそのニュアンスが伝わりませんが、「ガリラヤが栄光を受けたこと、ガリラヤの人々が大きな光を見たこと、死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照ったこと、イエスが国民を増やしたこと、イエスが国民の喜びを増し加えたこと、国民が刈り入れ時の農夫のようにイエスの前で喜んだこと、イエスが国民の重荷のくびきを粉々にしたことは既に起こったが、その影響や効果は続いている。」とイザヤは表現しました。もちろん、その影響や効果は今日も続いています。

イエスは日本を歩き回りませんが、私たちは聖書を通して、聖霊の働きによって、イエスを知りました。私たちも霊的な極夜に住んでいましたが、イエスによって悪魔と罪と死の重荷を打ち砕いてもらい、信仰を通してイエスの国の国民とされ、イエスがもたらす永遠の希望や喜びや平和を見ました。イエスは聖書や聖礼典を通して永遠の希望や喜びや平和を日々増し加えます。私たちもイエスの光で死の地と死の陰に座っている人々を照らすことができます。永遠の死に向かっている人々をイエスの光で照らすことができます。私たちの日常生活と信仰生活を通して、イエスの栄光を霊的な暗闇の世界に輝かせましょう。